

研修生に思うこと

研修所講師 伝統工芸士 下道 良平氏



四月に入学の時、陶芸家を目ざし、良い職人を目ざし、良い九谷焼の作家を目ざし、大きな夢と希望を持って澁刺とした気持ちで入学をされた皆さん、祝

いの言葉でも、色々な講演でも、九谷焼は上絵が特長であり、色絵が九谷である、といった言葉を耳にしたことと思います。その通りであり最終的にはそうあります。しかし、上絵や色絵はもちろん大切ではありますが、九谷焼の作品を作る上で、ロクロの成形がとても大切だと私は思います。

私はロクロの成形が本職であり、問屋からも、先生方作家からも、良いかたちや良い成品を要求されます。成形が本当に大切であり、作品の元であります。絵柄や釉薬や五彩の絵具だけでなく、ロクロやひも作りや石こう型を使った成形こそが、焼物の基礎として一番大切であろうと思います。

ロクロで一番大切なことは、土練りです。坏土を均一にするために約百回程の土もみ（たたきもみ、菊もみ）を行います。土を両手ではさみ、上げたり下げたりしながら、一定均一に成る様に土殺しをします。

ヘラ、ダンコ（こて）、切り糸、なめし皮等、準備する道具やその使い方も重要です。そして何より大切なことは、ロクロに対する姿勢です。良い物を作るには、良い作品を見ること、手に触れることが必要です。出来れば小さな品でも買いもとめて、自分の作品と比べると身につくし、わかり良いし、技術や発想などを自分のものに一番早くできます。

失敗の経験も大切な要素です。失敗を恐れず、一つ一つ直して技術を高め自分のものにすることは、最後の最後で作品作りの大きな力となってくれます。良い作品を作るには、技術プラス人間性であり、人格が何より大切だと思います。他人に感動や感銘を与えられるか、立ちどまって見てもらえるか、一味ちがうと感じてもらえるか、力強さや温かさを感じてもらえるかは、

「遊ぶ」=広い心と健康

「学ぶ」=生涯にわたる勉強と研鑽

「喜ぶ」=感謝・お陰様という気持ち

「忍ぶ」=堪忍・我慢

という自分の心次第であり、そんな中から立派な作品が生まれると思います。

森羅万象に感謝。

研修生・職員オールキャスト2013です



研修生をみてきて

研修所講師 伝統工芸士 東 剛太郎氏



研修所開設時から講師としてロクロ形成を担当してきました。その間多くの研修生と触れ合ってきたのですが、今日までの研修生を見てきて思うのは、

皆焼物が好きで懸命に技術を習得しようと取り組んでいるのが印象に残っています。皆新学期初めは戸惑いもあり、成形する技術に各人差があります。しかし、それは当たり前のことでそれらは評価の対象にはなりません。ロクロ成形には大事な基本があるのでそれらを守り繰り返し練習することによって、皆、必ず上級者に追いつき技術の差がなくなってきます。毎年そういう状況に出会うことが嬉しいです。

とにかく技術を身に付け腕に覚えさせることが私の指導の原点です。

また、ロクロ成形を学ぶことによって品物の良し悪しを判断する能力が養われることは間違いありません。将来きっと役に立つと思います。多くの生徒が懸命に伝えてくれたことに対し満足しています。

卒業生に期待することですが、いかに価値のある、そして上品な製品が出来るか常に追究しなければ成長はありません。人並みのことしかしていなければ、人並みのことしか出来ません。是非頑張ってください。

私のところに色々報告にきてくれる卒業生達も、皆少しずつですが、見事に進歩している様子が伺えます。研修所で学んだことを土台にして、さらに磨きをかけてほしいです。

九谷の業界も熱い視線を投げかけているようです。研修所で学んだことを糧に頑張ってください。

平成26年度の研修生を募集
しています

本科（2年制）15名

研究科（1年制）15名

実習科（加飾・造形）（週1日）30名



元気で活躍している卒業生・OB！

「学ぶ側から 教える側へ」

第5期生 竹内 靖さん



私にとって研修所は、かつては陶芸を学ぶ場でした。ところが去年、本科一年のロクロ講師のお話を頂き今度は教える立場として、研修所に行くこととなりました。

私が初めてロクロの前に座ったのは、高校生の時でしたが、それから30年近くたった今研修生たちが、初めてのロクロに悪戦苦闘している姿を見ていると、当時の自分もそうだったんだと懐かしく思い出されます。技術というものは一朝一夕に、身に付くものではありませんが、それを何年何十年とやり続けることしか上達の近道はないと感じています。

高校で3年間、研修所で専門2年と学んだ5年間は、今でも自分の作陶の基礎となっています。しかし、それ以上に勤め先や取引先、お客さんとのやり取りから学ぶことも多く、一生勉強だと感じています。自分がこれまで続けてきた中で得たものを、少しでも多く研修生に伝えることができればと思います。

三年前には、伝統工芸士の認定を頂きましたが、まだまだ未熟な部分もあるかと思えます。研修生たちとともに初心に戻ってこれから先も、さらに良いものづくりを目指して頑張っていきたいと思えます。



「2012『工芸未来派』展に出展して」

第11期生 見附 正康さん



九谷焼技術研修所を卒業しましてから、もう17年になります。

研修所卒業後は、憧れておりました福島武山先生の所で勉強させていただき、独立して今年でもう7年目になります。本当に早いものです。

昨年は、金沢21世紀美術館での「工芸未来派」展に参加させていただきました。ご連絡をいただきました時には緊張もありましたが、嬉しかったことを覚えています。

僕は皿5点を展示していただきましたが、僕自身今までに展示したことがない壁に設置ということで、初めはとても緊張いたしました。

会場は、天井・壁・床とすべて真っ白で、設置してみると大皿の絵柄が浮かび上がるような空間になり、ご覧いただきましたお客様からも嬉しいご感想を戴くことができました。

「工芸未来派」展では、21世紀美術館の秋元館長のキュレーションにより全国から様々な作家さんが、11名出展され、素晴らしい皆様とご一緒できました事を、とても嬉しく思っております。

本当に皆様とのお話などはとても刺激もあり勉強になりました。中でも、以前から細密な仕事で凄いなと思っておりました葉山有樹さん(有田)、北村辰夫さん(輪島)とお会いすることができ、色々とお話しさせて頂きました事は、とても思い出に残っております。

最近、色々な方々にご縁を頂くことができ、仕事をさせて頂いている事を、本当に有難く感謝しなければと思います。

今後も福島武山先生の所で勉強させて頂いた、赤絵の細かな技法を大切に、これからも制作に頑張っていきたいと思えます。



トピックス・カンボジアの焼き物

「コンボンチュナン焼き」

第9期生 鈴木 晶子さん

2月にカンボジアの焼き物産地コンボンチュナン州オンドーンルッセイ村を訪ねました。コンボンは港チュナンは鍋の意味だそうです。トレンサップ湖の南に位置し、伝統的に農業と水がめ作りで生計を立ててきた村です。しかし紐作り成形、野焼きによる低火度焼成の水がめでは、一

つが日本円で50円程度の儲けにしかならないので、登り窯による高温焼成を習得して付加価値を高めようと『カンボジア伝統陶器プロジェクト』が進行している最中でした。

益子の陶芸家達による現地での成形・焼成技術の伝達や日本での研修を終え、現在は首都プノンペンでのアンテナショップやホテル売店での販売、商品開発やマネジメントの育成に力を注いでいるとのことでした。

カンボジアといえば、9世紀末～13世紀頃にかけて黒釉や灰釉の優品を作っていたクメール文化の地です。末裔のカンボジア人による焼き物文化の復興となれば素敵なことだと、期待しつつ帰国しました。



コンボンチュナンにて

九谷焼産地・能美市

【来年の九谷茶碗まつりについて】

石川県陶磁器商工業協同組合

理事長 吉田 正一さん



今年の第105回九谷茶碗まつりは、松井国民栄誉賞記念カップや九谷焼ウルトラマンアートフィギアで話題を呼び、天候にも恵まれ、全国からたくさんのお客様が来ら

れ、盛況に終わりました。

さて、来年の九谷茶碗まつりは、九谷陶芸村に移り、この秋には、会場整備が行われ、研修所北側前空き地が大駐車場に整備されます。九谷陶芸村で開催することにより、資料館、美術館、陶芸館をはじめ支援工房や研修所を生かし、より九谷焼や能美市をPRできますし、九谷焼愛好家が満足していただける企画もできるようになります。例えば、有名作家による実演や講演会もできます。研修所も開設30周年を迎えますので、研修所らしい新しい企画も期待しています。

これは、研修生へのお願いですが、研修所を卒業して生活をおくるには、自分の製作した作品や商品が売れないと生活ができません。九谷茶碗まつりは、何十万人の方が九谷焼に興味があって来られます。ここで自分の製作したものを買い手と話しながら、販売してみませんか。まつりですので、値切られるケースもありますが、販売することにより、いろんな勉強ができます。

売るには、在庫も必要ですが、課外授業だと思い、トライされますことを願っています。

【これからの九谷焼と研修生】

九谷吉臣窯代表 徳田 吉臣さん



私が九谷吉臣窯三代目を継承して48年が経過しました。この間、九谷焼業界を取り巻く激しい環境変化にいち早く対応し、新たな試みにも取り組んできました。

今日、業界の現状を考えたとき、痛切に感じるのは「業界の将来を担う新たな人材の確保・育成」と「新たな組織像確立」の必要性です。

吉臣窯の責任として、これまで研修所を含め、多くの若者を雇用してまいりましたが、ひたむきな情熱を持って夢の実現（作家としての独立）を目指す若者がいる一方、厳しい環境変化に対応する気概が感じられない人がいるのも事実です。

私自身、事業承継を進める立場であり、豊かな感性と熱意、九谷焼を生涯生活の糧とする覚悟のある

人材を後継者として採用育成する必要があることから、新たな人材を核とした「実践的人材育成プロジェクト」に取り組むことに致しました。

過去、九谷焼技術研修所として技術を主として指導を頂いていますが、近々の課題は九谷焼業界活性化の為に後継者育成が急務です。

今日、最も重要なことは卒業後を見据えて、個々の生徒に九谷焼業界全体の景況観、又、長年に於いて作家として修行を重ね技術力ある方々でも廃業を余儀なくされている現状を率直に伝えた上で、研修所指導者は元より現場を預かる経営者として未来へ夢みる若者達への責任ある対応策、生活指導が大事ではないかと思えます。

是非共、御協力、御鞭撻、切にお願い申し上げます。

【能美市のブランディングに向けて】

能美市役所 市民生活部地域振興課

課長 谷田 直樹さん

「地域が消費者からどれだけ魅力的であると思われるか」を表した『地域ブランド評価』（ブランド総合研究所調査、1047自治体）の主要8項目における能美市の評価は概ね中位と全国的な知名度ではやや低いのが現状です。指標の1つに「その地域の産品で購入したいものがあるか」を聞いた産品購入意欲度（食品以外）がありますが、陶芸や漆芸の産地が全国の上位を占める中（輪島市1位、金沢市10位、加賀市16位）、能美市は伝統工芸九谷焼の産地でありながら175位と大きく水をあけられています。また、過去5年間の研修所卒業生の進路のうち引き続き能美市内で活動する方は1/4程度と低い状態であり、市民や地域、業界、行政がスクラムを組んだ産地づくりと市としての魅力向上が喫緊の課題となっています。

このような中で能美市では、まちにとって必要な働き手や地域の魅力創出のための可能性を持った職種の方を逆指名して呼び込むための『ワーク・イン・レジデンス制度』を創設しました。九谷焼などの伝統的工芸品後継者育成型では、住宅取得や設備投資に要する経費に対し150万円までの定額支援を行います。私たちと一緒に能美市のブランディングに取り組まれる人に対する投資的事業と位置付けています。どうか、能美市民としてご活用いただければ幸いです。



研修所からのご案内・企画の紹介

その1 平成25年度新入生情報！

学 科	入 学 者	性 別		出 身 地 別		平均年齢
		男	女	県 内	県 外	
本 科	12名	6名	6名	7名	5名	28.5歳
研 究 科	6名	2名	4名	4名	2名	26.3歳
特別聴講生	1名		1名		1名	
実 習 科	15名	6名	9名	13名	2名	49.3歳

平成25年度は、本科・研究科・実習科の全体で34名の新入生を迎え、スタートしました。

特に、本科に入学した研修生の中には、長年勤めた商社を早期退職し、好きな陶芸の道に進みたいと当所に入られた方もいらっしゃいます。

皆さんの年齢や経験は様々ですが、九谷焼への熱い思いを持って、真剣に取り組んでいます。

その2 研究科の技能飛躍を目指して！

今年度から、研究科生の意見を踏まえ、「技術習熟実習」というカリキュラムを加えました。

各自の希望する進路に応じて、「成形（型打ちロクロ）」「上絵付（写生・図案化）」のいずれかを選択できます。

自身の得意分野に、更に磨きをかけ、プロとしての自覚と高い技術を身につけようと一生懸命です。



型作りの指導を受ける（山本篤先生） 運筆の指導を受ける（山田義明先生）

その3 「オープンキャンパス」開催のご案内

日 時：平成25年8月24日（土）
10:00～16:00

内 容： 研修所の授業内容などの紹介や、ロクロ・上絵付けの体験、上絵薪窯で焼成する体験・見学会、研修生等の作品展や卒業生によるロクロと上絵付けの実演、お抹茶でのおもてなし等、盛り沢山です。

広く高校生や短大・大学生、一般の方々に是非ご参加を頂き、九谷焼の魅力と創り出す喜びを味わってください。

その4 「陶芸村まつり」会期中のイベント紹介

11月の2・3・4日に開催される「陶芸村まつり」に併せて、研修所と支援工房九谷を施設開放します。

研修所では、現役研修生の作品展示や、能美市の協力による「ひよっこりカフェ」がロビーで開設されるほか、支援工房のギャラリー彩では研修生や卒業生の自慢の作品が展示販売されます。

是非、ご家族やお友達とご一緒に陶芸村へ！

その5 上絵付け出張教室を始めました！

研修所では、より若い世代に九谷焼の魅力を感じてもらうため、今年度から県内の高校や短大・大学の美術部等を対象に、九谷焼の上絵付け体験ができる出張教室を始めました。

出張教室を希望する学校は、是非、ご連絡を！



7/17(水)金沢辰巳丘高等学校32名が参加しました。

その6 台湾の高校生が研修所で上絵付け体験！

7/23（火）に、台湾の台中市にある明道中学高等部の生徒19名が、研修所を訪れ、上絵付けの体験をしていきました。

白地のお皿とマグカップに、事前に考えてきた絵柄を書き込んでいましたが、筆をうまく使いこなし、浮世絵風の荒波や富士山など代表的な日本をイメージするデザインもあり驚きました。今後もこうした海外との交流を大切に育てていきます。



◇◇◇◇◇ 新所長のご挨拶 ◇◇◇◇◇

この4月に着任しました横川と申します。

長い行政経験の中で、初めて、本県を代表する伝統工芸の一つである九谷焼を支える人材づくりに携わることになり、大変緊張し身の引き締まる思いでいます。

まずは、研修所の使命である有能な人材をしっかりと送り出すとともに、九谷焼の更なる発展のため、業界や地元の皆さんとも連携して、研修所の機能を最大限活かしながら精一杯の後押しをしたいと思います。

よろしく、ご指導をお願いします。



所長 横川 隆之

「研修所通信NO.6」

発行：平成25年8月

編集：石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地

TEL 0761-57-3340

FAX 0761-57-3342

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

印刷：鶴川印刷株式会社

